



未来を担う子どもたちに対する 健康・食育啓蒙活動を資金面でサポート

岩沼・亶理地区遊技業組合 (宮城県遊技業協同組合)

「保育園児に対するスポーツを 通じての食育支援活動 『チアフルカフェ』」事業



岩沼・亶理地区遊技業組合
組合長
岩本富貴さん



宮城県内の保育園などでチアリーディング教室と食育活動を行っている

チアリーディングを通じて食育活動をする 団体に活動資金を提供

宮城県名取市、岩沼市、亶理郡にあるパチンコ・パチスロ14ホールが加盟する岩沼・亶理地区遊技業組合は、子どもたちに体を動かすことや食の大切さを学んでもらうため、チアリーディングと食育をミックスさせたプログラム「チアフルカフェ」を幼稚園や保育園などで行う「NPO法人クラブス」に年間119万円を活動資金として拠出した。

「震災後に様々な支援をしているクラブスさんは以前から知っていましたが、地域に対する貢献や子どもたちの未来を考えた活動、そして何より東北を元気にしたいという思いが一致したので、応援させていただくことに決めました。子どもたちには、体を動かす意味、大切さを学び、健康がいかに大事であるか、また、食育を通じて野菜や果物に栄養や旬があること、生産者が苦労して作ってくれていることなどを学んで欲しいと思います」と、同組合の組合長を務める岩本富貴さんは話す。

ところでチアリーディングといえば、スポーツの応援パフォーマンスやイベントのアトラクションなどでおなじみだが、活動を支援した「NPO法人クラブス」は、そのチアリーディングを通じて「地域で頑張る人を見えるかたちで応援したい」という目的で、1998年、福島県いわき市で設立され、2001年には郡山市、2003年には仙台市と活動範囲を広げ、現在、福島県内5地区、宮城県内8地区で活動を続けている。



活動を通じて子どもたちの「こころ」と「からだ」の健康をサポート



園長や先生からも好評のチアフルカフェの活動



食育に関する話を聞いた後、フルーツジュースを作った

その活動の一環として始めたのが、チアリーディングと食育をミックスさせた「チアフルカフェ」である。これは楽しくダンスを踊ったり、コミュニケーションを図ったりするチアリーディング教室と、果物や野菜について学びながら栄養を補うジュースを作って飲むことを通じて、未来ある子どもたちの「こころ」と「からだ」の健康をサポートしようというもので、幼稚園や保育園での「食育×チアダンス」プログラムと、地域の親子を対象にした「食育×スポーツチャレンジ」プログラムの2種類がある。

宮城県内13カ所のべ868名が参加した 「チアフルカフェ」

岩沼・亶理地区遊技業組合のサポートを受け、同法人では宮城県内のアスク愛子保育園、あつふる愛子保育園、アスク八乙女保育園、ろりぼっぼ保育園、六丁の目マザーグース保育園(2回)、はなぶさ幼稚園、青葉保育園、河原町すいせん保育所で計9回、チアフルカフェを訪問実施した(うち4カ所はダンス教室のみ)。さらに亶理町(亶理郡)、長町(仙台市)、富谷町(黒川郡)、石巻市の4カ所で親子で様々なスポーツにチャレンジできるキッズパーティを開催した。合わせて13カ所での開催となったチアフルカフェだが、合計で868名の参加者があったという。

そのうちのひとつ、仙台市若林区にある六丁の目マザーグース保育園で2016年12月19日に開催されたチアフルカフェでは、2~6歳の園児約60名が参加。10時からパフォーマンス、準備体操、チアリーディング教室を行った後で、10時30分から約1時間、食育に関する話を聞き、みんなでリンゴ、オレンジ、ミカン、バナナ、ニンジン、レモンで作ったジュースを飲んだ。

「年長さんたちがとても元気で、ダンスも積極的に参加してくれた」、「食育の話のときも全員しっかりとお話を聞いてくれた」、「園長先生はじめ、先生方からも子どもたちが元気に参加していてよかったとお言葉をいただいた」と、チアフルカフェの活動は、子どもたちはもちろん、幼稚園や保育所を主宰する先生方にも好評である。